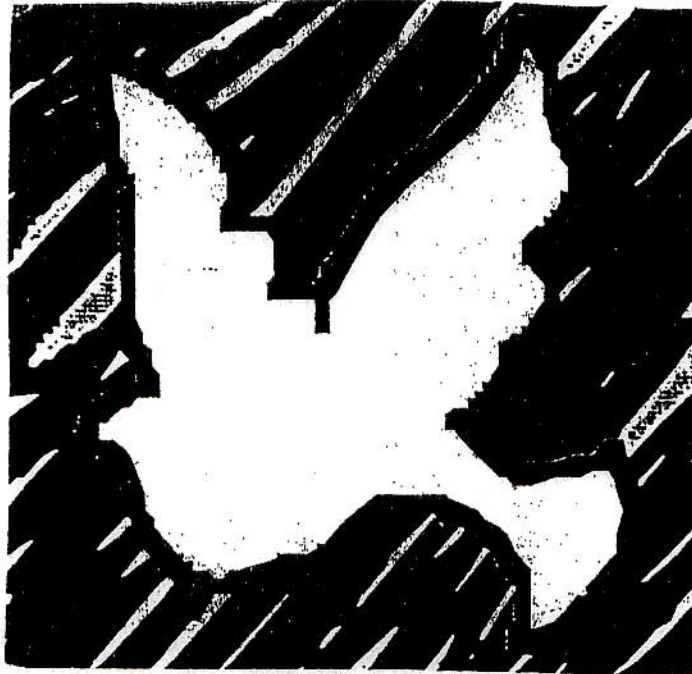


H14. 12. 1 発行
No.4



7月7日、朝から夏の好天気にも恵まれた七夕の日曜日、九大同窓会館において第7回福岡親子の会「つばさ」定例会が行われました。

今回の講演会は、今までと趣向を変え、口唇口蓋裂の具体的な治療からはなれて、小児科医からみた「子育て」のお話を聞かせて頂きました。

吉永陽一郎先生は、日本を代表する子育て支援のスペシャリストであるといっても過言ではありません。聖マリア病院に日本で初めて開設された育児療養科という子育て支援を主眼とした科の初代科長として、また地域においては吉永小児科医院の副院長として、患児の皆さんやその親御さんの、体を治し、心を癒し、文字通り小児内科医療の最前線で実際に毎日ご活躍されている方です。「親も子もそのまま育児」というご講演名からも想像がつかますように、毎日の子育てにちょっとばかり不安と疲れが出てきたような我々にとって、どこかホッとすると、そしてどこからか勇気が湧いてくるようなお話を聞かせて頂きました。

また、講演会終了後は軽食を囲んでの懇親会を行い、参加された皆様の交流があちこちで見られ、今回も盛会のうちに終了致しました。会の運営にご協力下さいました皆様、募金・寄付金等にご協力頂きました皆様、そして、会には参加できなかったけれど、“会誌が届くのを楽しみにしています”と、激励のお言葉を下さった方々、この場を借りて全ての方に厚く御礼申し上げます。

福岡親子の会「つばさ」会員の皆様

拝啓

師走の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。
福岡親子の会「つばさ」の開催をご案内致します。

福岡親子の会「つばさ」とは、口唇裂・口蓋裂のこどもとその親御さん方の会です。口唇裂・口蓋裂の治療に携わる専門家の講演を聞いたり、治療や日常生活での出来事等と同じ病気にかかわる人同士で話し合ったり交流を持つことで、疑問や不安をすこしでも解消していくことを目的に発足しました。年に2回、夏と冬に定例会を開催し、夏は治療に関する講演会、冬は会員の方々による経験談や質問会およびバザー等の親睦会を行っています。本会も今年でいよいよ5年目を迎えました。会員皆様のご協力によって、色々な行事を重ねながらすこしずつ内容も充実してまいりました。

冬の定例会を下記の要領で開催致しますのでお知らせします。今回は、久しぶりに公開質問会を行いたいと思います。その後、親睦会としてぜんざい会とバザーを開催致します。同年代のこどもを持つ親御さん同士や、同じ年頃の本人同士が交流できる場にもしたいと考えています。盛会を期待していますので、どうか親子おそろいでお出かけ下さい。なお、ぜんざい会の会費は例年と同様、会員皆様からの募金で賄っていきたいと思いますので、どうかご協力下さい。

当日は、たくさんの方々とお目にかかれることを、楽しみにしております。

・福岡親子の会「つばさ」冬の定例会

日時：平成15年1月26日（日）午前10時～午後2時

会場：九州大学医学部同窓会館（九大病院構内、正門入って左側）

公開質問会：午前10時～12時

今回は講師の先生をお招きしての講演会ではなく、ご参加の皆様が日頃不安に思っていることやご不明の点等を、年齢別および総合的に質問して、他の会員の方のご意見を聞かせて頂いたり、医療スタッフからのアドバイス等を得る機会にしたいと思います。

会費：一家族500円（お一人でもご家族何人で参加しても同額です）

ぜんざい会とバザー：午前12時～午後2時（同会場にて）

準備の都合がありますので、同封のおはがきにてご出欠をお知らせ下さい。

おはがきの通信欄には、ご意見や日頃疑問に思うこと、また他の方にご相談したい事等、なんでも結構ですのでご記入頂ければ幸いです。ご記入頂いた内容を含めて、話し合いの場を持ちたいと思います。それでは、ご返事をお待ち申し上げます。

敬具

平成15年12月1日 福岡親子の会「つばさ」世話人一同

バザーにご協力をお願い

口唇口蓋裂患者のための福岡親子の会「つばさ」では、冬の定例会においてバザーを行っております。

毎年、冬のバザーには皆様から多数の品をお持ち寄り頂き、誠に有難うございます。次回の冬の定例会（平成15年1月26日 九大医学部同窓会館にて）にも恒例のバザーを行うことになりました。これは皆様からご家庭の余剰品を無償で提供して頂いて売り物にしています。収益は全て本会の活動と運営のための資金とさせて頂いています。

今回も、皆様からのご寄付をお願いできれば幸いです。

ただし、毎回のバザーでは売れるものとそうでないものが、かなりはっきりとしています。売れ残った品は引き取り先が見つからず困ったことになっています。ですから誠に勝手ながら、今回もお持ち頂く品の種類を限定させて頂きたいと存じます。どうかご了承下さい。

下記の要領で品を集めたいと思います。よろしくご協力の程お願い致します。

- ・ 平成14年12月1日より平成15年1月10日の間、品物を受け付けます。
- ・ お持ちいただく場所は、九大歯学部附属病院2階発音治療室
- ・ 提供していただきたい品は下記のとおりです。
 - 子供服（新品もしくは新品同様のもの）
 - 雑貨品（未使用のもの）
 - おもちゃ（こわれていないもの）
 - カバン、バッグ類（新品もしくは新品同様のもの）
 - 本
 - 賞味期限内の食料品（ただし生ものは除きます）
- ・ 受け取れない品は下記のとおりです
 - 婦人服および紳士服
 - 生もの
 - 使用済みの食器
 - その他、提供していただきたい品の上記の条件に合わないもの

多数の出品をしたいと思いますが、ものによっては出品できなかったり、お受けできないこともあるかもしれません。どうかご理解の程お願い致します。

以上よろしくお願い申し上げます。ご不明の点は担当医にお問い合わせ下さい。

平成14年12月1日

福岡親子の会「つばさ」世話人会一同

子どもに好きだと伝えたい

吉永陽一郎

最初の子どもが幼稚園の運動会に初めて出たときのことを覚えています。競技の様子をではありません。運動会前の準備体操で、長女が他のこども達に混じって同じように運動をしている姿を見ただけで、パパはウルウルだったのです。そして学芸会、その後あれこれと行事が目白押しでした。こども達は次々に新しいことに挑戦します。みんなと手をつないで同じ歌を歌っただけで「みんなと同じに出来たわね、上手だったね」とほめられていた頃から、次第に難しくなるのです。隣の子と代わり代わり歌ったり、コーラスが入ったり、掛け合いのせりふが入ったり、照明と音響効果が同時に雰囲気を変えたり。人間は少しずつ自分が出来ることよりも難しいことを成し遂げたときに喜びを感じるものようです。それは大人になっても、プロになっても続くものです。私たちは園児でも歌える曲を歌っても、ほのぼのとはするかもしれませんが、それで何かを成し遂げた喜びを感じることはありません。やはり人は失敗するかもしれないことを、成功したときに初めてうれしいのです。失敗する可能性が十分あったのにうまくいった。上手に出来た。それこそ私たちが終生追い求めるものなのかもしれません。うまくいったときは何ものにも勝る喜びを得ることが出来るのですが、失敗するのかもしれないのです。仕事でもあるでしょう、スポーツ、芸術かも、受験でしょうか、ひょっとしたら人間関係も含まれるのかもしれないね。

失敗したときに人はどうするのでしょうか。すぐに思いつくのは二つの方法です。一つは止める、逃げ出す、あきらめる。もう一つは、再挑戦する、立ち向かう、解決方法をさがす。逃げ出すには、「私には逃げるところがある」「逃げ出せば何とかなるはずだ」「私は誰かにかばってもらえるはずだ」ということを信じてくれている必要があります。一方、再挑戦するには「もう一度やってみればうまくいくかもしれない」「私のことをわかってくれる人もいる」という自信が必要です。不思議なことに、逃げ出すにしろ、再挑戦するにしろ、その基礎にはどちらも「自分は受け入れられている」という思いや、自分のいいイメージが必要であることに気がつきます。

ママは時にはいらいらもするでしょう。とてもほめてばかりはいられません。時には手だって上がってしまうかもしれません。でもどうやら子ども達には、「本当はあなたのことが好きよ」と伝え続ける必要があるのです。子ども達の将来にわたって、自分が愛された記憶、よい自己イメージが大切な心のよりどころになるのならば、母は、家族はどのようにしてその事を伝えたらよいでしょう。

子ども達に、あなたのことを思っているという事を伝える方法は、沢山あるでしょう。私が今思いつくことは、二つあります。

一つは、さわること。

近年、全国の新児センターでは、面会の方法として「カンガルーケア」が流行です。ママがざっくりした服を着て、その下は下着もとりません。裸の胸に赤ちゃんを抱いて、そのまま親子でじっとしている。そんな面会方法がカンガルーケアです。時にはパパカンガルーもあらわれます。カンガルーケアを続けていくと、そのうち赤ちゃんがしっかりしてきて、ママと一緒に遊ぶようになります。そうすると「タッチケア」の出番です。ママやパパの手指を使って、一定の圧力をかけながら赤ちゃんの全身をゆっくりとマッサージします。軽く皮膚色が変わるくらいの圧が適当だと考えられています。マイアミ大学が中心となって、多くの国で行われている「タッチセラピー」は、日本では「タッチケア」という名称で次第に家庭でも行う人が増えてきています。不登校の子ども達の治療に、母親の添い寝療法をやっている方もいらっしゃいます。抱っここのすすめや、HUG（ハグ）という言葉も聞くようになりました。眼科の学会では、子ども達の神経性視野狭窄の治療に、薬は何でもいいが、母親の膝枕点眼が有効だという報告さえもあるといます。どうやら様々な分野で、「さわる」「ふれる」ということを言い始めた時代であるようです。

もう一つは、ほめること。

いい子でしたね。よくお手伝いできたね。当然ほめますよね。でもそれだけではいいことしなければいい子ではないようです。もちろんいい子でいたらほめたいもの。でもそれは、隣のおじさんにも、幼稚園の先生にも出来そうです。親にしかできない「ほめ方」とはどんなものなのでしょう。それはその子の存在そのものをほめることかもしれません。あなただから好きだよ、いてくれてうれしいよ。何かいいことをしなくても、あなただから偉いよ。ところがなかなかこれが難しいものです。子どもが本当にいいことをしたときは、案外その事をほめて終わってしまうものです。誰が見ても可愛い子は誰でもほめます。その

子どもほめられることに慣れても来るでしょう。

あなたが何をしても、どんな子でも、病気があっても、他の人には良さが分からなくても、私だけはあなたが大好きだよ。子どもが悪いことをしたとき、何か失敗したとき、病気の時、注意したりいたわったりする時に、私たち親が「それでもあなたが好よ」

・・・と伝えるチャンスやヒントがあるような気がしています。

ホームページ <http://www.hf.rim.or.jp/~yyoshi/>

広報誌には、毎号講演して下さった先生から講演内容の要旨を頂いて掲載しています。吉永先生は、表紙の挨拶でもご紹介したように、日本を代表する子育て支援のスペシャリストです。文中にも出てくるのですが、新生児・小児医療ではすでに広く用いられている「タッチケア」ということばは、吉永先生が名付親です。大変ご多忙な先生ですが、今回このような貴重で心温まるメッセージを本会に下さいました。この場を借りて、深く感謝の意を表したいと思います。感謝したいのは原稿を下さったから！？、というだけではありません。今回の御講演をお願いするにあたり、こんなことがあったのです。

じつは7月7日の定例会当日は、久留米市で吉永先生ご自身が会長をおつとめになっているこども会も開催されていました。その時間を我々のために空けて下さったのです。5月頃、御講演のお願いに伺い、「つばさ」の趣旨を説明したところ、「そういう会があるならば、自分もこども会があるけれど何とか時間をやりくりしてみましよう」、と快く二つ返事でお引き受け下さいました。そして当日は、ご講演が終わるやいなや、「こども会のイベントがまた続いているのですぐに帰ります。懇親会には出られませんが皆さんによろしくお伝え下さい。」、と小走りにお帰りになる吉永先生の後姿をお見送りしながら、こういう人たちに支えられてこの会は成り立っているんだナァ、と思いました。ただただ頭が下がりました。

口唇裂・口蓋裂の治療に携わる専門家の講演を聞いたり、治療や日常生活での出来事等と同じ病気にかかわる人同士で話し合ったり交流を持つことで、疑問や不安をすこしでも解消していくことを目的に「つばさ」は発足しました。今回のお話で、病気を持って生まれてきた子と健康に生まれてきた子、子育ての基本に違いがあるのかどうか、我々の「つばさ」の趣旨に何かとても大事なアドバイスを下さったような気がしています。

電子メール連絡網について

かねてからの懸案事項であった、福岡親の会「つばさ」電子メール連絡網ですが、今年度夏からメーリングリストをたちあげています。

fukuoka-tsubasa-subscribe@egroups.co.jp にメールを送信して、画面の手順に従い、メーリングリスト登録申込をして下さい。申込後、登録のお知らせがメールバックされてきます。これで登録完了です。

その後ご意見やご質問などがありましたら、

fukuoka-tsubasa@egroups.co.jp にメールして下さい。

そうすると、登録している方全員にそのメールが届きますので、メールを受け取った方から何らかのお返事がもらえることとなります。

また、世話人会専用メーリングリストも立ち上げています。世話人同士の連絡に使います。

世話人の方でメーリングリストに登録ご希望の方は、

fukuoka-tsubasa-sewanin-subscribe@egroups.co.jp

にメールを送信して、画面の手順に従い、メーリングリスト登録申込をして下さい。申込後まもなく登録のお知らせがメールバックされてきます。これで登録完了です。

その後連絡やご意見投稿は、

fukuoka-tsubasa-sewanin@egroups.co.jp にメールして下さい。

なにぶん初めての試みですから、色々と支障があるかもしれませんが、どうか皆様の積極的なご参加をよろしくお願い致します。

第7回親子の会 アンケート結果

アンケート総数 39名

A. 講演について

1. 内容について
よくわかった 30名 わかった 9名 むずかしかった 0名
2. 時間について
長い 2名 適当 36名 短い 1名
3. 次回の講演内容について
 - ・ こどもの上手な叱り方
 - ・ 先生方のもっと具体的な（口唇口蓋裂の事について）講演内容が聞きたい
 - ・ 成人男性患者の体験
 - ・ 集団生活について（幼稚園・学校での友達との関わり、いじめなど）
 - ・ 口唇口蓋裂のお子さんを育てたことのある親御さんのお話 食事の時の様子など
 - ・ 口唇口蓋裂児は身体障害者であるかどうか
 - ・ 小児科の先生の話をもっと聞きたかったです。おもしろかったです。
 - ・ 海外について
 - ・ 内容の違う短めの講演を2回に分けて、などが良い
4. その他ご意見
 - ・ 講演ということではなく、会に出席された方の体験談を話してもらおうというのは難しいでしょうか？（色んな方のお話をお聞きしたいので）
 - ・ 子供達が何度も何度も出入りしていて、ウロウロしていたので、ちょっとイライラして聞いていました。もう少し親子さんも考えてほしい
 - ・ 今後も定例会の案内を是非お願いします
 - ・ 子供が成長し、小児科の Dr に接することも少なくなりましたが、吉永先生の温かい診療風景が見えるようでした。
 - ・ 機会があればもう一度吉永先生の話（講演）を聞きたいです。
 - ・ 今日の話は父親達が聞いてよかったです。私も地域で GaN² 親子講座のお手伝いをさせて頂いていますが、なかなか父親に聞いてもらいたい育児の話なども主人に聞いてもらえたのでよかったです。
 - ・ とてもおもしろくよかったです。お父さんに聞かせたかった。

- ・ 子供の世界だけでなく、大人にも通ずる講演内容で、反省をしながらこれからの生活にも十分こたえていこうと思いました。
- ・ 今回の吉永先生のお話は、自分の心に少し余裕が持てた気がしました。よく母親・子供の気持ちを理解していらして、“その通り”と共感していました。
- ・ 楽しいお話で経験のある事を交えながらお話して頂いたのでよかったです
- ・ 講演中に子供が走り回る、声を出す、これでは講師の先生も話しづらいのでは。子供だけ集めてビデオを見せる場所を設けるなどの配慮をしていただきたいです。
- ・ 病気のある子にもない子にも応用できる子育て論を伺って非常に参考になりました。時間が短く感じられました。有難うございました。

B 懇親会について

1.内容について

たいへんよい 10名 よい 11名 ふつう 10名
 よくない・たいへんよくない 0名 無記入 8名

2.雰囲気について

たいへんよい 7名 よい 13名 ふつう 10名 よくない 1名
 たいへんよくない 0名 無記入 8名

3.次回の催しについて

- ・ 屋外でのふれあいもよいのでは？
- ・ 外へ出て子供同士の触れ合いの機会を増やしてほしいです
- ・ モーモーランドなどに行って皆でお話できればいいなと思います
- ・ 外でのレクレーションを希望します
- ・ 子供同士の触れ合いがしやすい（レクレーションなど）場を作られると
 いうことで、楽しみにしています。宜しくお願い致します。

4.その他ご意見

- ・ 同じ年齢を持つお母様方と話ができてよかったです
- ・ 子供が会場内を走り回り、うるさくて内容が聞き取りにくい
- ・ 是非子供の会を作ってください子供同士が年に何回か会えるようにして下さい
- ・ 色んな人の話が聞けてよかったです
- ・ 授乳室（お湯とか母乳スペースとか）があると助かります

C 福岡親子の会「つばさ」全般にわたって、ご意見ご要望があれば

- ・ いろいろ大変かとは思いますが、いつも有難うございます
- ・ いろいろな段取りをして頂き有難うございました。お疲れ様でした。
- ・ MLに登録していますが、他にどういう方が登録されているかがわかるとメールしやすくなると思います。
- ・ いつも資料を送っていただきありがとうございます。これからも宜しくお願いたします

いっしょに活動しませんか

世 話 人 募 集

定例会の時にご紹介いたしました世話人は、先生方のご協力のもと、現在15名ほどで会のお世話をさせていただいております。

「何をするの?」「遠いわ!」「子供も小さいし」・・・いろいろ事情はあるかと思いますが、会に対して何を希望しているのかそんな声を上げてくださるだけでも十分です。こういうことを知りたい、こんなことで悩んでいる、育児のことでおしゃべりしたい・・・など、なんでもけっこうですので、難しく考えずに参加してみてください!

詳しくお聞きになりたい方は、診療のときにでも先生にお伝えくだされば、次回の世話人会の日程をご連絡いたします。お会い出来ることを楽しみにお待ちしております。

第7回福岡親子の会「つばさ」夏の定例会決算報告

(単位:円)

繰越金 428,447

収入の部

参加費 (52家族×500円)	26,000
受付の募金	44,332
<u>小計</u>	<u>70,332</u>

支出の部

吉永先生へ謝礼	20,000
葉書代(350枚)	17,500
世話人会飲み物代	1,876
宅配ピザ36枚	40,950
お菓子代	2,483
飲み物代	136
ビデオテープ代	2,058
<u>小計</u>	<u>85,003</u>

次回繰越金 413,776